

# 「何かあったときに来てもいい?」 それがすごく嬉しくて。

## フリースペース かなで

### 小規模多機能型居宅介護 時間の奏

「地域にこの施設があってよかったと思ってもらえることって何だろう?」と考えていた時に、自分の子どもを通して学校に行きにくくなっていく子どもたちが多くいることを知り、何かできたらと思いました。そんなとき、ふと手に取った「えにし通信」で「フリースペース」を知り、「これだ!」と思いました。

時間の奏は、家庭的な居場所。広くはないですが、利用者さんとスタッフの距離が家族のように近いんです。そこに来てくれる子どもたちは、ひ孫のような存在で、いろんな世代と関わることでお互いの価値観が広がっていると思います。

夏に花火を用意したら、「初めてや〜」と子どもたちが喜んでくれたんです。そんなことから、特別ではない普通の日常、一つひとつと一緒に経験できる場にしていきたいと思うようになりました。ここでは、こちらが「こうしてあげたら喜ぶかな」と思っている、想像を越えたことが

#### 「フリースペースかなで」管理人 松川 恵さん

利用者の皆さんに「ありがと!」と声をかけてもらえることが嬉しい、癒されます。小規模多機能の良さは、利用者さんとの距離が近いこと。多岐にわたるサービスができて嬉しいです。

利用者さんの中には、子どもの来る日を楽しみにしている方も。絵本を読む時もみんな一緒に♪



起こります。想定するよりもっと手前のところに課題や喜びがあるのかもしれない、と教えてもらっています。

専門職ではない分、はじめは親御さんとの距離等に不安がありました。でも、結局は1対1の人間関係なので、たとえ背景に何があっても今のかわりに変わりはないのかな、と今では感じています。職員もさまざまな世代がありますが、いろんな世代が関わることでみんなの居心地の良い居場所になったらいいと思います。

子どもたちは、いつも「何かあったときに来てもいい?」と聞いてくれます。それがすごく嬉しくて、家族には言いづらいことでも受け止めてくれる人がいる場所、成長したときにここをもう一つのおうちだと思っ、気軽に来てくれたら嬉しいです。



株式会社大匠 小規模多機能型居宅介護 時間の奏(大津市)

# 子どもたちが学校で見せる顔とここで見せる顔が 同じになる日が来るように...

## フリースペース せせらぎ

### 特別養護老人ホーム せせらぎ苑

「フリースペースせせらぎ」管理人 生活支援室副主任 ソーシャルワーカー 増澤 典子 さん(左)  
生活相談室 ソーシャルワーカー 曾和 寛子 さん(右)



「フリースペースせせらぎ」は、近隣の小学校の先生やスクールソーシャルワーカーから地域の子どもたちのSOSの声が届けられたことから始まりました。お話を聞くまで、身近なところに大変な思いを抱えている子どもがいるという状況を知らなかったため、驚き、ショックを受けました。でも、この活動で自分たちの地域の子どもたちが喜んでくれるなら...と、9月からスタートしました。

活動のスタートにあたってフリースペースカーサの見学にも行き、自然に子どもが遊びに来ているような感覚で「お帰りと迎える形にいい意味で驚きました。それまで来てくれる子どもとの関わりで悩んでいましたが、構えずしていたのかもかもしれません。

始まってまだ間もないですが、回数を重ねるごとに子どもたちの変化を感じています。最近ではケンカもするようになって、慣れてきてくれたかなと思うと嬉しいです。お母さんも「周りの人にとても助けていただいている」と喜んで下さっています。

フリースペースせせらぎに來

ている子どもを通して、ご家族のことも気になりますし、何か力になりたいと思っています。核家族が増えて、子育てをひとりですべて抱え込みがちなお母さんが週1回でも地域のなかに子どもを安心して預けられて、ゆくり過ごしてもらえるなら何よりです。

家庭では色々なことを抱えているかもしれませんが、来ているのは本当に普通の子供です。スクールソーシャルワーカーから、学校で見せる顔と私たちに見せている顔はまた違うと聞いていますが、それがいつか同じになればいいと思っています。私たちは児童の専門ではないので、「指導する」ではなく、ざっくばらんに何でも喋れる地域のおばちゃんのようにかかわっています。

ここに来ることで少しづつでも気持ちが変わり、何かを感じとってくれる居場所にできたら嬉しいです。地域のなかで助け合える風土がとてまたたくらいいと思います。



社会福祉法人甲南会 特別養護老人ホーム せせらぎ苑(甲賀市)

この日はバスケットボール! 施設の中でも外でも遊びの可能性は無限大!



## フリースペースの可能性

幸重 忠孝 さん (幸重社会福祉士事務所代表、滋賀県スクールソーシャルワーカー)

### ■制度の疑問? なぜフリースペースが必要??

子どもたちは、家庭や学校、幼稚園、保育園、幼稚園のなかで生活しながら大人になっていきます。そうしたなかでさまざまなアクシデントにみまわれて、しんどい思いや寂しい思いをしている子どもたちが増えています。これは「親が悪い、学校が悪い」ということではないんですよ。現代の複雑な社会のなかで子どもの居場所をつくりきれない部分があるんです。現実として滋賀県は、不登校の在籍率が高いですね。学校に行きにくくても、他に行くことができる居場所があればいいですが、子どもを受け止めることができる居場所が少ない

ことも事実です。だからといって家庭のなかだけだと、親とのかかわりのみになってしまう、人間関係の広がりが一気に少なくなってしまいます。そのような現状を受けて、子どもを変える様々な居場所が生まれています。夜の時間をサポートできる制度はなく、制度の限界性を感じていました。

### ■高齢者福祉施設をはじめとする社会福祉施設に子どもの居場所をつくるという発想!

そんななか、社会福祉施設を活用した夜の居場所「フリースペース」の企画を聞いて、「なるほど!」と思いま

した。家庭や学校、児童の施設ではない地域の社会福祉施設のなかで地域交流スペースや夕方以降のデイサービススペースが空いているという着眼点が面白いなと思いました。

実際に子どもたちが来るようになって、予想以上の良さや効果が見えてきました。そもそも施設は生活の場なので、お風呂があって、ご飯があって、必ず人が常駐しているという強みはもちろん、送迎の手段をもっていることも大きいですが、お年寄りの方と子どものかかわりもあって、決して嫌なくとも、その場を共有することのすごさを感じています。子どもも施設の利用者の方も、その日を楽しみに待っていて、子どもがいるだけで元気になったり、力になれることもあります。1+1が2じゃなくて、3、4となっていると感じます。

色々な事情を抱えている子どもたちに、「かわいそう!」だから光を当てようじゃないんです。子どもたちはみんなすごい力をもっていて、輝いているんです。

### ■フリースペースの可能性

福祉の課題として、担い手不足はどれも課題になっていますよね。子どもたちがフリースペースのなかでかわる大人姿をみて「福祉の仕事に就きたい!」と思ってくださると嬉しい。また、親子でフリースペースに来るなかで、仕事をしようと思った時に、「いつも行っている場所で働きたい!」と就労の入口になる等、フリースペースはいろいろな可能性をもっていると思います。

